



## 浮いて待て！

毎年、シーズンになると痛ましい水の事故が発生し、テレビや新聞などで報道されています。その中には、「浮いて救助を待つ」ことで助かったかもしれない例も数多くあります。



消防署では水の事故を起こさないように、学校やPTAを通じて命を守る着衣泳講習を開催しています。

### ①溺れてしまったら？

手や足をバタバタさせると体力を消耗してしまいます。また、腕を頭の上にあげると沈みやすくなります。もし、溺れそうになったら、息を

たくさん吸って胸に空気をため、全身の力を抜いてラッコのように背浮きすることが勧められています。状況によって、服の中に空気を入れたり、ペットボトルやかばんなど浮くものを胸に抱えたりして「浮いて待つ」ことが大切です。

### ②溺れた人を発見したら？

まず、119番通報をします。そして、浮くものを探して溺れている人に渡すことが救助の第一歩になります。「助けに行きた人が溺れてしまう」ことは少なくありません。陸上への救助は救助隊やライフセーバーに任せたいでしょう。



## 意見発表会全国大会へ

全国消防長会東海支部消防職員意見発表会が4月26日新城市（新地域文化広場文化会館）で開催され、田原市消防本部の遠山直也消防士が最優秀に選ばれました。6月26日には北九州市で開催される全国大会に東海支部代表として出場します。

遠山消防士は、「道標（みちしるべ）」と題して、台風や地震、そして津波など災害が発生した時に、田原市民だけでなくレジャーや観光などで訪れた土地勘のない方にもわかりやすい避難誘導の仕組みについて提案・発表しました。



## 愛知県防災航空隊



愛知県防災航空隊は、防災ヘリコプター（通称わかしゅち）に搭乗し、その特性を活かした空からの広域的な消防防災活動を任務としています。活躍の場は、愛知県内を中心に要請があれば全国各地に出動します。

愛知県防災航空隊に、この4月から3年間、河合宏和消防士長が派遣されています。河合消防士長は、「空から県民の安心・安全を守り、災害に強い愛知県を目指していきたい。」と熱い思いを胸に厳しい訓練を積み任務を遂行しています。